

ORIC NEWS

ノ 翔 飛

ひし
しょう

入居企業紹介

ベンチャー企業が
元気になる

ペルソナ手法って何？

売上・利益
アップ

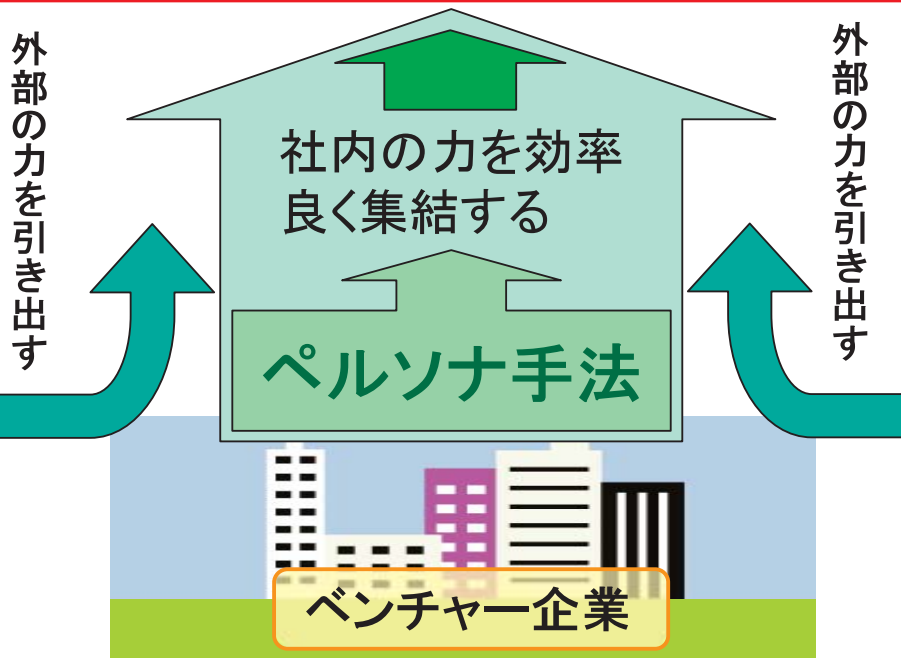
商品開発効率
アップ

ビジネスプランの
魅力がアップ

ホームページの
宣伝効果アップ

社員のやる
気をアップ

融資・投資を引
き出す



顧客(ユーザー)への理解を深め、チームの一体感を形成することでベンチャー企業を成功へ導く手法です。ペルソナ手法は、(株)アイ・エス・ティにお任せ下さい！

詳細は7ページをご覧ください

一本号の主な内容

巻頭言

研修・交流会活動

入居者の活動・トピックス

入居企業紹介

イベント案内

No.23 (2009.1)

「暮らしやすさ日本一」の 岡山を目指して

岡山県知事 石井 正弘



新年あけましておめでとうございます。

県民の皆様方のご支援を賜り、引き続き県政を担当させていただくことになりました。その責任の重さに身の引き締まる思いで新年を迎え、「暮らしやすさ日本一」の岡山の実現に向けて、全力を尽くしてまいりたいと決意を新たにしているところです。

本県の財政は、今後も巨額の収支不足が続くことが見込まれることから、昨年、持続可能な財政構造の確立に向けた改革の目標、具体的な取り組みなどを掲げた「財政構造改革プラン」を取りまとめました。これまでの行財政改革の総仕上げとして、私が全責任を持って、この改革を成し遂げる覚悟です。

岡山県の明るい未来を切り開くため、財政構造改革に全力で取り組む中であっても、県民の生活を守り、向上させていくことを最優先に、第1の柱を「持続可能な財政構造の確立」、第2、第3、第4の柱を「新おかやま夢づくりプラン」の3つの基本戦略である「教育と人づくりの岡山」、「安全・安心の岡山」、「産業と交流の岡山」の3つの創造、第5の柱を「地方分権改革と道州制・中四国州の推進」とし、この「5つの柱」の下、選択と集中を徹底し、県民の皆様が将来に夢と希望を持ち続けることができるよう施策を着実に進めてまいります。

こうした中、県内ベンチャー育成の中核拠点である岡山リサーチパークインキュベーションセンター（ORIC）は、昨年、内閣府などが実施する「産学官連携功労者表彰」において「経済産業大臣賞」を受賞しました。この受賞は、PFI事業として民間のノウハウや柔軟な対応を生かした運営と、公的施設として（財）岡山県産業振興財団や岡山県工業技術センターと連携した一体的な取り組み、そして短期間で将来性の高い企業を多数発掘していることが評価されたものです。このように、ORICが開設後わずか5年で、県内の新産業・雇用創出の優れた効果をあげることに成功し、一昨年の日本新事業支援機関協議会主催の「JANBO Awards」における「新事業創出機関賞」受賞に続き、全国のビジネス・インキュベータの中で優秀な評価を受けたことは大変喜ばしいことです。

またORICの入居者の中からは、高度な技術力や将来性により国内外から注目を集める企業などが次々と育ってきており、今後なお一層の飛躍を期待しているところです。

引き続き、岡山県政に対する力強いご支援、ご協力をお願いいたしますとともに、皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げ、新年のごあいさつといたします。

■ 平成20年10月度ORIC交流会及びセミナー

● 入居企業紹介

「マゴット治療の現状」 (株)JAPAN MAGGOT COMPANY

佐藤代表取締役より、ハエの幼虫であるマゴット（英語でウジ虫のこと）を無菌化して糖尿病などで発症した壊疽を治療する“マゴット治療（別名：ウジ虫治療）”の現状と普及活動について説明がありました。マゴットは壊疽になった部分だけを消化液で溶かしてその液を吸収するので、従来の外科的治療よりも患者の負担が少ないこと、イギリスなどでは健康保険が適用されていることから、今後我が国でも普及するものと期待されています。しかし、薬事法などの要因もあり我が国では普及が遅れているため、同社は国内初のマゴットの供給会社として、マゴットセラピーワークショップなどの活動で医療関係者の理解を深め、各都道府県に2ヵ所以上の“ウジ虫治療”が可能な医療機関が設置されるよう活動を続けているとの説明がありました。壊疽による足の切断と言った悲劇がなくなる日本を実現させたいとの佐藤社長の熱い思いが伝わってくる会社紹介でした。



● ゲスト機関紹介

「IPO市場の現状とジャスダック『NEO』のご紹介」 (株)ジャスダック証券取引所

ジャスダック証券取引所ステークホルダーズ本部三宅次長より、同取引所が平成19年11月に開設した新市場「NEO」(ネオ)の特徴を中心に説明がありました。まず、投資家の信頼を失ったうえ金融の混乱が重なり、IPOが激減している新興市場の現状について説明があり、次に当センター入居企業に適した特性を持つ「NEO」の説明がありました。「NEO」は成長可能性のある新技術又は新たなビジネスモデルを有する企業にIPOのチャンスを提供する市場で、対象企業の特性に合わせて審査基準が緩和されている半面、“技術評価手続”の新設と“技術評価アドバイザー・コミッティー”の設置、経営計画・事業計画の進捗・変更状況等の説明を内容とする“マイルストーン開示”の義務付け、と言った他の市場とは異なる制度が導入されていることの説明がありました。「NEO」のIPOは現在4社ではあるものの市場拡大は社会ニーズに沿うものでもあり、「NEO」に適した入居企業の利用を期待しているとのことでした。



● OIAセミナー

「顧客ニーズを捉えてオンリーワン商品を作る」 (株)企業競争力研究所

同社代表取締役高杉氏より、顧客ニーズを捉えるための手法・考え方を中心に説明がありました。顧客ニーズを捉えたオンリーワン商品を永続して作るには、ビジネスとアイデアには大差があるとの認識が必要であり、プロダクトアウトではなくマーケットインの発想で時間をかけて商品企画を行うべきだとの説明がありました。世の中に完璧な商品は存在しないので、ニーズと商品の間には必ずギャップが存在する。そして、ギャップは使っている人が気付いている場合（顕在ニーズ）より、気付いていない場合（潜在ニーズ）が多く、潜在ニーズに着眼した商品開発が高収益のオンリーワン商品を作ることになるとのことでした。また、商品開発にあたって、ほとんどの特許は大企業にとってクリア可能であるため特許のみでガードするのは難しいこと、自社のビジネスサイズにあったマーケットで勝負し体力勝負になるマーケットは避けることの重要性も強調されました。



●入居企業紹介

「定年退職者の知識を活用した積算受託事業」 (株)タッグス

同社代表の伊藤氏は40年以上、大手ゼネコンに勤務していましたが、平成20年6月の退職を機にORICの創業準備室に入居し、起業の準備をしてきました。今般ゼネコン勤務の知識・人脈を生かして、入札の見積りに必要な設計図から部材などの数量を積算する業務の受託に特化した積算専門会社を起業しました。見積もり件数の増加、入札企業内での要員の減少などにより、積算業務の外注化、市販積算用ソフトの普及は既に進んでいます。しかしながら市販ソフトは外販の必要性からコピー防止の保護措置がかけられているため、一人作業しかできなくなっています。そこで同社内部での多数同時利用を前提とした分散型入力ソフトを開発しています。定年退職者と若者などとのコラボレーションによる正確性・迅速性・廉価性を備えた積算受託事業を目指しており、定年退職者の経験による正確性の担保、若者と専用ソフトによる入力の迅速性、安い労働単価が容認される定年退職者と若者などとのワークシェアリングにより廉価性を実現させたいと熱い抱負を語ってくれました。



●ORICセミナー

米国発の金融危機への対応をテーマに11月はセミナーを開催しました。

金融危機は実体経済に影響します。金融危機への対応として、金融経済の現状をまず確認するのがセミナーⅠの目的です。次に入居企業への影響はまず資金繰りにあらわれると予想し、資金調達ルートと留意事項を取り上げたのがセミナーⅡです。

セミナーⅠ

「最近の金融経済動向について」 日本銀行 岡山支店

講師である日本銀行岡山支店高橋支店長より、10月末に日本銀行が発表した『「展望レポート」(2008年10月)の概要』を参考に、日本銀行が金融政策の前提としている足元の金融経済の状況と2010年度までの経済・物価見通しについて、その根拠を含め説明がありました。以上の経済・物価見通しについては、上振れ・下振れ要因が実態経済面と物価面でそれぞれあり、その内容についても解説がありました。参加者からは「分かりやすく内容も参考になった」などの感想が寄せられ好評でした。



セミナーⅡ

「金融機関からの資金調達にあたって」 岡山商工会議所 中小企業振興部



講師は岡山商工会議所 中小企業振興部金融課の藤原課長補佐にお願いしました。まず、日本政策金融公庫、岡山県制度融資及び岡山市制度融資のそれぞれについて融資の種類とその特徴について説明がありました。次に、金利、資金用途、保証人・担保、貸借対照表の項目別に経営者として認識すべきこと及び返済方法などにおいて、資金調達時に留意しておいて欲しい点について事例も踏まえ説明がありました。

●入居企業紹介

「新商品：『振り込め詐欺』撃退サービスについて」 (株)VOIPACK JAPAN

代表取締役社長稲葉氏より、同社が新商品としてサービスを開始した頭書の振り込め詐欺防止の商品内容と顧客の反応について説明がありました。同社はこれまでIP電話を利用した日中間国際電話を格安料金で法人向けに提供してきました。今回初めて個人向け商品を発売したが全く反応がないこと、初期費用も含め割高であるとの指摘があると説明したうえで、参加者に意見を求めました。参加者からは老人向けサービスなのにIP電話が条件で老人向けになっていないことや、着信拒否機能など類似のサービスが既にあり差別化ができていないなどの意見がありました。稲葉社長は講演後も意見発言者と熱心に意見交換するなど、商品開発に向けた真摯な姿勢が伝わってくる企業紹介でした。



●ゲスト機関紹介

「岡山県中小企業者向け融資制度について」 岡山県産業労働部 経営支援課 金融支援班

同課金融支援班の渡邊主幹より、金融危機の中にあって資金調達を容易にするために用意されている二つの支援策について説明がありました。一番目は昨年10月末から始まった「原材料価格高騰対応等緊急保証制度」で、対象業種が幅広く要件も緩和されているうえ、保証限度額が従来の2倍となり保証料率も割安になっているとの説明がありました。特に今回は金融機関が与信リスクの20%を負担する責任共有制度の対象外のため利用しやすいので、前向きに検討して欲しいとのことでした。二番目は岡山県が保証料の一部を補助することで岡山県信用保証協会の保証付融資を受けることができる頭書の融資制度の説明がありました。事業経営に必要な資金調達には「小規模企業対策資金」、経営維持のための「安定対策資金」、創業時期にある入居企業向けの「創業支援資金」「中小企業経営革新等支援資金」などの具体的な説明があり、目的に応じた積極的な利用を期待する発言がありました。



●ORICセミナー

「マスコミからみた地場経済～ベンチャーの意義と役割」 テレビせとうち (株)報道制作局

テレビせとうち(株)報道制作局田中報道部長から岡山経済の規模、特色と同社で報道したユニークな企業のDVDでの紹介がありました。自身のマスコミ経験から感じているベンチャー企業への期待は、小さくてもキラッと光る県内企業が報道されることで皆の気持ちが前向きになって頑張ろうという気分させてくれる、例えば人体におけるビタミンの役割であるとのことでした。最後に企業がマスコミを利用する場合に、ニュースリリースのタイトルの重要性（「〇〇初」が付くと取上げやすい）、リリース内容を判りやすい言葉で一般の人が理解できるものにする、そして遠慮せず積極的に何度でも記者に働きかけることが重要であるとの指摘がありました。以上の点に注意することで、取り上げの紙面が大きくなることも多いそうです。同社は経済関係の番組を持ち、地元経済や企業の活動を積極的に取り上げる方針なので、常にニュースリリースを待っていることや、リリースの時だけでない人間関係があれば自然と取上げ回数も増えるとの発言もありました。入居企業のマスコミへの取り組み姿勢を見直す機会になるセミナーでした。



■ フォーカスセミナー 「無料データベースを利用した米国特許調査方法」

平成20年10月28日(火) 講師に岡山県知的所有権センター、社団法人発明協会岡山県支部内特許情報活用支援アドバイザー大西康博氏を招いてORIC入居者を対象にした標記セミナーを開催しました。これは7月30日に開催した「基礎から学ぶ特許電子図書館の活用方法」の続編にあたります。特許庁のHPまたは特許電子図書館のHPから、米国および欧州のデータベースにアクセスして行う、(1) 開発しようとしている技術に関する特許調査方法(2) 特定番号の特許に関する調査方法の具体的手法の説明がありました。また、米国の特許であっても特許電子図書館の「公報テキスト検索」を利用すれば、和文抄訳による日本語検索が可能といった便利な検索方法についても説明がありました。

■ 第17回IT研究会 「2011年 テレビ放送完全デジタル化～テレビは進化する」

平成20年12月16日(火)に、株式会社オービスの放送技術顧問の岩田氏より、標記タイトルでお話しを伺いました。地上デジタル放送のサービス内容、伝送のしくみ、ワンセグ、さらにアナログ放送の終了に関わる話題を中心にお話し頂きました。また、デジタル化に伴い、多チャンネル化が進みますが、BSやCS等の多チャンネル放送の今後の方向性、光回線を利用したインターネットテレビやサーバー型放送サービスなどネットと放送の融合化に関わり今後展開される様々なハード環境についても触れられました。ただ、多チャンネル化しても、各チャンネルが生き延びるためには優良なコンテンツが必要で、これらを多数保有している映画会社や放送局が著作権などをクリアして、多数提供することが鍵となることを示唆されました。

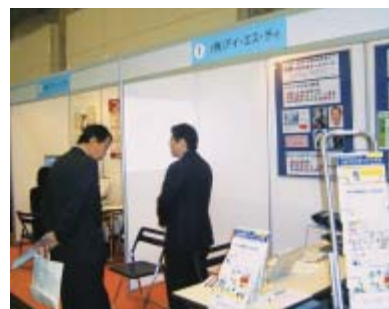


入居者の活動・トピックス

■ ベンチャープラザ岡山2008

平成20年11月27日(木)にコンベックス岡山で頭書の展示会・商談会が開催されました。110の出展企業と6機関の技術・経営相談コーナーが設けられ、個別商談会として「ニューマーケット(IT関連)商談会」も開催されました。ORICからは(株)アイ・エス・ティ、(株)シスコ・コミュニケーションズ、(有)クラフト、(株)クレオファグ及びE&Dテクノデザイン(株)の5社が出展し活発な商談を行いました。

同時に催された「ベンチャー・ビジネスプランコンテスト」の最終選考会にはORICから(株)タッグスと(株)パティエラボの2社が参加し、それぞれのビジネスプランを発表しました。今回の「ベンチャー・ビジネスプランコンテスト」では、最優秀賞は該当者なしでしたが、(株)タッグスの伊藤社長が発表した「(定年退職を迎えた建設技術者の知識の活用を図る)技術データの編集・加工事業」が優秀賞を獲得しました。



株式会社アイ・エス・ティ

代表者 代表取締役 吉井 誠

連絡先 〒701-1221 岡山市芳賀5303 ORIC 316号室

TEL 086-286-9215 FAX 086-286-9216

URL <http://www.ist-japan.co.jp/>

E-mail info@ist-japan.co.jp



がんばるベンチャー企業のためのペルソナ手法

株式会社アイ・エス・ティは、ベンチャー企業や中小企業で、売上や利益などの営業効率改善、既存商品の改善、新商品開発・新サービス企画などで効果の高いと評価されている「ペルソナ手法」を提供しています。この手法はアメリカで生まれ、ペルソナと呼ぶ架空の人物像を特定して商品開発を行うもので、日本でも大企業に導入されヒット商品を生み出して来ました。現在はマーケティング手法として活用する大企業も増え、いずれも規模の大きいプロジェクトに使われています。この手法を導入するメリットとしては（１）効果が早い、（２）無駄なコストを削減できる、（３）効果が多面的である、などの点が挙げられます。同社では、一生懸命がんばっているけど、なかなか成果につながっていないベンチャー企業・中小企業向けに、小規模企業に使いやすい形式にしたペルソナ手法を提供し、高い効果を上げて、クライアントに大変喜ばれているとのことでした。

同社が、これまで成果を挙げたクライアントから得た感想では、

- （１）ITベンチャー企業
 - ・顧客から見て満足度の高いサービスができた
 - ・販売代理店への説明もしやすくなった
 - ・顧客の反応が非常に良くなった

（２）健康に良い食品販売を行う企業

- ・売上が上がった
- ・価格改定もスムーズに移行できた
- ・マスコミにも取り上げられた

（３）住宅販売施工を行う新興住宅企業

- ・一戸建住宅が営業したその日の内に売れた
- ・購入する気のない人に購入意欲を持たせることに成功した
- ・顧客が喜ぶオプションを用意することで、売上単価が上がった

などで、他にも多くの顧客から効果进行评估してもらっているとのことでした。

同社は、がんばるベンチャー企業にペルソナ手法を最適な形で提供するため、東京・大阪ではセミナーを開催しています。また、ソニー・富士通・リコー・IBMなどの幹部・開発者や、山梨大学・千葉工大・倉敷芸科大そして岡山県立大学（社長の吉井さんが大学院に在籍中）などと連携して、ペルソナ手法をさらに使いやすい形にするための研究をしています。従来からある大企業向けの事例でなく、ベンチャー企業・中小企業などの事例を通してこの手法の適用可能性と精度を高めていく同社に期待が集まっています。

あなたの会社でもペルソナ手法を導入してみませんか？

「第13回 岡山リサーチパーク研究・展示発表会」

岡山県内の大学および岡山リサーチパークに関係する企業・研究機関の研究成果を発表する場を提供し、その成果を県内に広めるための交流の場を設け、県内産業の振興に寄与するため、「岡山リサーチパーク研究・展示発表会」が開催されます。

この発表会では（1）精密加工・機械・材料、（2）情報通信・エレクトロニクス、（3）健康・医用・福祉、（4）バイオ・食品、（5）環境・化学・デザイン、（6）MOT・知的財産等の分野において、パネル発表により発表者と参加者の交流を深め、研究・技術・商品開発などの産学官連携の推進を目指したものです。同時に、特別講演会、交流会も開催されますので、ニーズ・シーズマッチングや出会い・ビジネスチャンスの場として是非活用願います。

- 【開催日時】 平成21年2月6日(金) 10時～18時30分
- 【会場】 テクノサポート岡山（岡山市芳賀5301）
- 【主催】 岡山リサーチパーク研究・展示発表会実行委員会
構成：岡山県、岡山県工業技術センター、(財)岡山県産業振興財団、岡山大学、岡山県立大学、岡山理科大学、倉敷芸術科学大学、岡山リサーチパークインキュベーションセンター
- 【プログラム】 10:00～10:30 オープニング
10:45～15:00 展示発表セッション
15:15～16:45 特別講演会 産業技術総合研究所 太陽光発電研究センター
センター長 近藤 道雄 氏
16:45～16:55 表彰式
17:00～18:30 交流会

入居者募集中!!

センターでは随時入居のご相談に応じています。お気軽にお問合せください。

■ 施設使用料・空き室状況

(2009年1月現在)

| 施設区分 | 面積 | 使用料の月額 | 部屋数 | 空き室数 |
|-------|-------------------------|-----------|------|------|
| 研究室小 | 約 25 m ² | 45,000 円 | 22 | 7 |
| 研究室大 | 約 50 m ² | 88,000 円 | 30 | 9 |
| 試作開発室 | 約 100 m ² | 175,000 円 | 6 | 2 |
| 創業準備室 | 5 m ² / 1ブース | 5,000 円 | 6ブース | 4ブース |



研究室大



研究室小

創業5年未満の会社は、入居後3年間は使用料を1/2に減免する制度があります。

■ 次回募集

原則として3ヶ月ごとに入居審査会を開催しています。次回は1月末までに事業計画書を提出された方を対象に、2月中に開催の予定です。

(※創業準備室の募集は随時受付けています。)

詳しくはホームページをご覧ください。 <http://www.oric.ne.jp>